

## 自由応募分科会 5 ポスト・マハティール期のマレーシア政治 報告 2

鷲田任邦（東洋大学）

### マレーシアにおける与党連合の急激な後退と路線転換の背景 Electoral Setbacks and Conservative Backlash in Malaysia

マハティール退任後のマレーシアの選挙政治は、与党連合・国民戦線（BN）の急激な後退によって特徴付けられる。2008年選挙でBNは大幅に議席を減らし、続く2013年選挙には野党連合に得票数で劣ることになった。覇権政党の典型とされたBNは、なぜ急激に後退したのか。また、後退に直面したBNはどのような政権維持戦略をとり、それによって選挙政治はいかに展開しているか。近年の選挙について少なからず研究が蓄積されてきたものの、全体像を把握する上では体系的検討の余地が残されている。

そこで本報告では、下院選挙結果の集計データと、有権者政治意識のサーベイデータにもとづく計量分析をとおして、3つの課題に取り組む。すなわち、①2008年・2013年選挙で、誰が、どのような理由でBNから離反したのか、②2008年選挙でBNの得票減少が大幅な議席減少につながったのはなぜか、そして③2013年選挙に向けてBN（とくにUMNO）がマレー人優遇路線（と低所得者向けバラマキ政策）へと舵を切ったのはなぜかという3つの課題である。

具体的には、①については、得票構造の変動と有権者意識の特質を検討することをおして、BN後退・停滞の背景を探る。②については、特に選挙区割り（ゲリマンダリング）の逆説的効果という観点から、得票減少に対するスウィング効果が拡大した要因を検討する。③については、政策空間上の政権党の位置取り戦略に関する理論的考察をふまえ、BNの路線転換の背景にあった有権者意識を探る。最後に、今後のマレーシア選挙政治の展望について考察する。